

編輯室の内外

今夏林内閣が成立して政治の建て直し企圖せられるかと見れば忽ち倒壊して近衛内閣が成立し、あらゆる摩擦相剋の弊を齎めんとするに當り不圖も支那事變が突發し全面的に戰時色に塗られ大本營内閣參謀制が生れ企劃院が設けられ大本營内閣が改正せられ、蹶々茫茫の裡、本年の終末號を刊行することとなつた、顧みて投稿者各位の熱誠なる懇情に對し感謝の意を表せざるを得ないのである。

支那の將政權と軍閥の滅亡は時の問題となつた、英國の外交轉換術は如何、ソビエツトロシアの魔術的東方策は如何、英崇拜熱は遠き過去の夢であつた。打算的外交を排せんとしても必要な程度の英語研究を廢せんとする頑迷なる國粹的妄見は贊し難い採長補短は捨つべきものでない。心と目を世界に開き有益なるものを受けて帝國躍進の途を講ずべきである。恐露病はまた昔時の疾患であつた、日露戰役の勝利を以て今尙對露策を夢みてはならないがコンメンタルの主張は人類を滅亡に導く赤痢病である。我々は全力を盡して其の病菌の傳播を防止しなければならぬ、日支間戰爭も獨伊防共協定も其の精神を同くする、實力を以て防共の事に當らんこともあり得るであらう、前途遼遠である帝國民の覺悟や奈何ん。支那の悲鳴の聲に驚かされて所謂國際聯盟は笛を吹き九ヶ國會議はブラッセルに開演した、英はイーデン外相マルコムに自治

編輯室の内外

領相マクドナルド等、米はデヴィス外交顧問ホーベック國務省顧問、佛はデルホス外相ド・テッサン外務次官、モネルヴィン植民次官其他、伊はマレスコツチ伯爵、ソ調査團員、ブレジオン駐白大使、支那は顧維鈞駐佛大使駐英駐白兩大使其他、ソ聯はリトヴィノフ外務人名委員其他、ベルギーはスパーク外相外一名、ポルトガル、オランダ、デンマーク、カナダ、ニュージーランド、スエーデン、メキシコ、ポリヴィア、インド等各其の一、二流外交官を派し演技せしめ、會議の結果聯盟依存者流をして迷夢からさめさせたるの感がある其の原因する所は故意か偶然か將た認識不足か。男女青年者特に都市の彼等は其の思想行狀に於て如何に訓練されつゝあるか國民的精神、感情的表現、道德的情操に於て如何に向上しつゝあるか規律を輕んじ、節約を忘れ、享樂的生活に墮し、秩序と組織とを排して自己中心主義に奔流しつゝあることなきが特に非常時局に在つて彼等の思想行狀に眼を注ぐときに其の頹廢破滅に彼の足を急ぎつゝあるものを視慄然たらざるを得ないのである。

またしても鑛業所の慘禍を見る、群馬縣吾妻郡嬭戀村飯山麓小串硫磺鑛山埋没し數百の人命を奪ひ去つた、先年の尾水澤鑛山ダム決潰事件と云つた、先年の尾水澤鑛山へ其處に人間の注意方と眞劍味といへばい少なからざるを見る、將來此種の防止策や如何。

一概に土木事業を不急なりと排することなかれ、時が過ぎ日が進み月が重なり歳が

加へられるに從ひ不完備な道路橋梁等土木事業に依つて吾等の文化生活が如何にむしばまれつゝあるかと思ふときに何が不愈と斷ずるの理由となるか。

孫文が三民主義と五權憲法を以て支那全國を統一せんと企てたとして自ら崩壞の途を辿り蒙古民族をして自治政府を樹立せしむるに立ち至つた。今日目をさましてもまだ遅くはない支那の要人達よ。

本會創立者の一人であつた三菱の桐島像一氏は「偲ばるゝ月は昔の儘ならむ、蒼の下水影澄まぬとも」との辭世を残し七十四歳を以て十月十五日此世を去られた、氏の足跡は相當大なきものがある噫。(一一、二二、洮)

| | |
|------|-------------------------------------|
| 定價一部 | 五十錢 |
| 一ヶ年分 | 金六圓 |
| 發行所 | 東京市麴町區外櫻田町一番地内務省内 社團 道路改良會 法人 |
| 發行所 | 電話銀座(57)四二七 東京市世田ヶ谷區代田壹丁目七八〇番 |
| 編輯者 | 小島 |
| 印刷所 | 東京市小石川區歌町五六 |
| 印刷者 | 常磐印刷所 |
| 印刷者 | 奈良直一 |